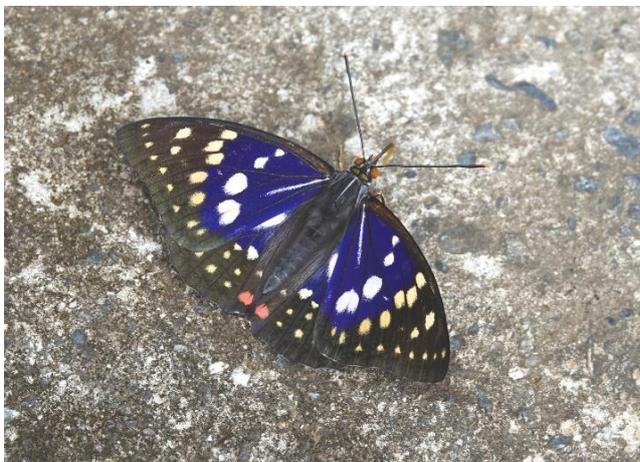


和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
オオムラサキ	タテハチョウ科	里山のシンボル ダイナミックな飛翔 重厚感のある紫の輝き	X	X	X	全国



樹液が出ているクヌギに集まる。カナブン、アオカナブンが見える。山梨県韭崎 7月中旬



♂は樹液の他にミネラル、水分を吸う姿がよく見られる。

成虫発生時期 (月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
食草 ○ 食樹						発生回数/年		越冬形態			
エノキ						1		幼虫			

「里山」とはウィキペディアによると「集落、人里に隣接した結果、人間の影響を受けた生態系が存在する山をいう」とありますがその里山のシンボルとも言えるのがこの国蝶オオムラサキです。かつては武蔵野の雑木林には普通にいたタテハチョウですが、里山の減少に伴い急速に数を減らし各地で保護活動も盛んです。少し小型ですが「コムラサキ」は明るいところを好んで飛び回り光の方向により強い紫の幻光を発します（この付近の多摩川でも少ないながら見ることができます）。



コムラサキ 長野県南佐久郡 8月初旬
紫の幻光は強い



山梨県日野春 7月下旬♀



クヌギの樹液に集まる♂たち



山梨県韮崎 7月上旬



山梨県韮崎 7月上旬



コムラサキ 長野県上高地 7月下旬